

タイ舞踊と日本の踊りの比較研究

鈴木裕美子
プンクリム・サンペット
鈴木美穂

(福島大学)

はじめに

タイ舞踊も日本の踊りも、神事や祭祀、芸術、教育、興業、娯楽などの目的・地域・歴史・性・年齢などによって踊りの特色が異なる。また、それぞれの踊りには独自の音楽・衣装・採り物・動きなどが伴う。両国には、身近な生活の中から生まれた踊りも多く、労働や動物などを題材にした踊りが、表現性豊かに踊りつがれている。

1. 目的

タイでは、宮廷舞踊は盛んで舞踊劇も多く、現地では古典舞踊や民族舞踊が容易に鑑賞できる。しかし、日本に紹介された踊りは非常に少ない。そこで、本研究は、タイ舞踊の特徴をとらえるために、“女性の踊り”である「ネイルダンス」、 「プータイ」、 「スーンカティップ」をとりあげ、「秋田おぼこ」と比較分析して、タイ舞踊を教材化していくことを目的とする。

2. 方法

1) 期間

- 第1段階1997年6月～10月 タイ舞踊の習得
- 第2段階1997年10月～11月 パフォーマンス
- 第3段階1997年11月 授業実践(体育専攻学生)

2) 対象

福島県内の体育教師	15名
フォークダンス連盟会員	5名
学生	20名
その他	5名

3) 分析方法

- (1) 各踊りや練習風景をVTRおよび写真撮影し、両国の踊りの相違点を分析する。
- (2) 練習後、感想を取材する。
- (3) 受講感想文を分析する。

3. 結果と考察

タイ舞踊の最大の特徴は、肘や手首や指の屈曲とそらして、サインとしての型がある。日本の踊りは、指をそろえることが多く、手首の切り返しや指のしなりに特徴がみられる“秋田ぶり”も、同様である。

足については、タイ舞踊は男女とも足首を屈曲させ、日本の女踊りは足首が自然の状態が多い。両国とも男は膝を外旋させるのに対し、女はタイでは膝を前に曲げ、日本では衣装の関係で内旋させる。重心は、タイ舞踊は高く、体重をかかると、日本舞踊は低く、体重はつま先にのせることが多い。

エアパターンについては、タイ舞踊は変化が少なく、日本の踊りは複雑である。踊った後、タイ舞踊は緊張を持続させるので前腕がひきしまり、日本の踊りは上肢をダイナミックに動かすので、開放的になる。

「ネイルダンス」は、四指に金色の金属の爪をつけ、2人組みで踊る。花、太陽、こんにちは、私は綺麗よ、ハス、空を飛ぶ、風車、神様、鳥の羽など、11の場面で構成されている。

「プータイ」は歓迎の踊りで、赤い糸と房をつけた銀色のネイルをつけて踊る。象、花、太陽、空、羽など、11の場面に展開される。

「スーンカティップ」は、男性に女性がお弁当を届ける踊りである。歩く、ハスの花、花、太陽など、8場面で構成されている。

「秋田おぼこ」は、山を見る、稲を抱える、鎌で切る、草分け、私は綺麗よ、稲を背負うなど、農作業や山菜採りの動作で構成され、若く、働きの娘の誇りが表現されている。

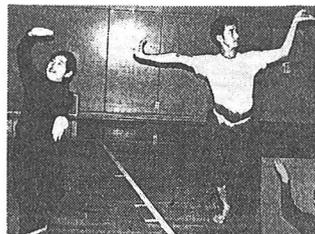
いずれも、軽やかな足取り、しなやかな手さばきは共通しており、若さや美しさが強調されている。

4. まとめ

タイの踊りは構成が規則的で、上肢のポーズが優雅に変化に富んでおり、指や手首や肘を極限まで屈曲させ前腕を緊張させる。また、ポーズの一つひとつはサインとなっている。

「秋田おぼこ」はタイ舞踊と同様、指をそろえたり手首を回す動きなど、手の振りに特徴がある。ストーリーと動きの意味で、感情をこめて踊ることができる。しかし、各動きは、必ずしも他の踊りにもサインとして応用できるとは限らない。また、上肢を静止させたまま踊る場面や異時性のシメトリーは少ない。

タイ舞踊と日本の踊りを比較研究し、踊りの特徴をとらえ両者を習得することで、正確さや情緒性など、それぞれのよさを取り入れることが可能であると思われる。



「空」



「神様」

女性：秋田おぼこ
男性：ネイルダンス